



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

〔 私たち(社福)童心会の人間教育を見つめて 〕
～いまから ここから ヒトの成り立ちの歩みを考える～

国立成育医療研究センターこころの診療部長(小児科)が児童相談所で働いていた時、
子どもに虐待をしたかもしれないお母さんと面接する中でその方が
「私は愛されたことはありません。愛し方が分かりません。愛するとはどういうことですか」
と聞いてきたことがあったそうです。

この小児科医の先生があるシンポジウム(討論会)で次のように発表したそうです。

「ほとんどの子どもは幼少期に何らかのトラウマ(心的外傷、心の傷)を経験し、
これらの体験はすべての細胞・臓器レベルで影響を及ぼし、
生涯を通じて身体的・感情的、発達の、行動的健康に影響を及ぼす」と言っていました。
しかし私はこのような問題の根本的な解決策は、
社会的な現況を見据えた私たちに課せられた役割なのではないかと思っているのです。
例えば、子どもの貧困を捉える多様な側面があります。

1. 3つの側面からとらえる現代の貧困

- 1) 経済的な貧困 (金銭的な貧困・経済教育の貧困 etc.)
- 2) 関係性の貧困 (社会的孤立、見えない貧困、多世代交流、愛された育ち etc.)
- 3) 経験の貧困 (成功体験、失敗体験、自然体験、抱きしめ言葉 etc.)

2. 多面的な要素で捉えた貧困

- 1) 機会の貧困 (気候・風土、良質な賞賛、叱責 etc.)
- 2) 知識や情報の貧困 (社会行事、家訓、ご近所との交流 etc.)
- 3) 文化の貧困 (季節のまつり、宗教、歴史の理解、人の成り立ち etc.)
- 4) 言葉の貧困 (三歳児神話、非言語、言語、コミュニケーション能力 etc.)
- 5) 健康格差 (三世代連鎖、生活様式、食育、環境 etc.)



笑ったか ずー 一番 だっこされたか ずー 一番 やさしくされたか ずー 一番
遊んだか ずー 一番 でかけたか ずー 一番 チャレンジしたか ずー 一番



E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



私は前月の童心会日より

「五つの感情の物語」～ヨロコビ・カナシミ・イカリ・ムカムカ(けん悪)・ビビリ(おそれ)の世界～
の中で「インサイドヘッド2」の映画の紹介をしました。

この映画は9年前に上映された「インサイドヘッド」主人公の少女ライリーが5つの感情の仲間の働きと共に、
一つ的人格として成長させる物語であり、そしてその少女ライリーが思春期を迎えた時、
不安・嫉妬・内気・無気力などの新しい感情の仲間たちと共に新しい自信を創ることに気付きはじめる、
という”人の成り立ち”の映画なのだそうです。

改めて私は長い人間教育の歴史をふり返ってみた時、

”人の成り立ち、生い立ち”の過程の中で一番大切なことを発見しました。

それは前述したインサイドヘッド「五つの感情の物語」の中でも書いたのですが、

「心の中の感情の働きと共に自分の人格を作ることだ！」ということでした。

私たちは生れ落ちてすぐ生命を授けられてから母親との対面で目と目が合った途端、
”表情・仕草・態度・天使のほほえみ”などから非言語コミュニケーションが始まるのだそうです。

私たち(社福)童心会はこの時から心とこころのServe & Return(やりとり・受けこたえ)が
はじまるという人間科学の理論を共有しています。

特に人が”愛された育ち”を感じるのは、少女ライリーと同じように感情(Feeling 喜怒哀楽)に
どのようにServe & Return(やりとり・受けこたえ)をしてもらったのか、ということが問われます。
何かの問題が生じ、悲しくて泣いている時、すぐに”やりとり・受けこたえ”をもらえなかった子は
イライラし、怒り出します。そしてしまいには”かみつき・叩く”などの暴力行為に及びます。
また情動(emotion_恐れ、不機嫌、嫌悪、不安)などのServe & Returnが確実になされないと
自分が肯定されない否定的で消極的(ネガティブ)な性格になってしまうそうです。

改めて私たち(社福)童心会の人間教育のはじまりを考えると「誕生期」にありました。

Something great(偉大なる人)のお導きによって授けられた存在(生命)は、

「生まれてきてくれてありがとう!」「生まれてきてよかった!」

という双方の感動・喜び・祝福の中で迎えられます。

そして双方に”幸せホルモン_セロトニン”が生まれ、”愛情ホルモン_オキシトシン”が分泌され、
心が満たされて皆さんが豊かな想いにつつまれるのです。

次に「五感期:五感を刺激する0歳からの人間教育」は、生まれてすぐ天意によって授けられた
視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚を通して、心を動かされ、意識を高めていきます。

そして「やりとり期(Serve & Return:やりとり・受けこたえ)」では

Non-verbal communicationやFeeling(感情・喜怒哀楽)やEmotion(情動・恐れ・苦しみ・嫌悪・歓喜)などの
経験や体験を通して、生きる力につながる興味・関心・好奇心が生まれてきます。

私たちは常に今までも(社福)童心会の童子(どうじ)たちや仲間たちの

Well-being(幸せになろうね!幸せになろうよ!)を願ってきました。

さらに私たちは未来人、童心会の童子たちの幸せを願って生きていかなければなりません。

いや、私たちのWell-beingをも含めて”助け合って生きる”を合言葉にして生きていかなければならないのです。

[うるおい・やすらぎ・思いやり]

どうぞ皆さまの毎日がおだやかな暮らしにつつまれますように!

そしてすべてのご家庭の皆さまのお幸せを祈っております。

どうぞ いつまでも お幸せに!!

令和6年 9月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲